

# 令和6年度 学校の業務改善

— 「子どもたちと向き合う時間」と「教職員のウェルビーイング」のために —

## 子どもの自主性を育む 手をかけすぎない指導

### 子どもを中心とする指導観への変換

- ・「ティーチング（教える）」から「コーチング（導く）」へ
- ・「一斉」から「個別最適」へ
- ・「与える」から「選ぶ・考える」へ

例えば…

子どもたちが

- ・夏季学習会の計画を立案（織田中）
- ・生徒主体による行事の運営（金津中）
- ・毎日30分のプロジェクトタイム（勝山中部中）など

先生が、ていねいに教えないと理解できないのでは…  
先生が、考えた宿題を出さないと成績が下がるのでは…  
先生が、子どもたちの先回りをして準備しないと  
有意義な活動とならない…



「子どもたちの主体的な学び」を目指す、思うように進まない  
「子どものために」時間をかけることを良しとする教員の意識  
「対話的な活動」の経験不足 など

## 校務全般におけるDXの推進

### ICTの日常的な活用

- ・得意な先生だけのものにしない
- ・常にICT活用を意識
- ・広がる可能性の創出

例えば…

- ・Teamsを利用した職員間の情報共有（南越中）
- ・C4th Home&Schoolによる、おたより配布や連絡のデジタル化（大飯中）
- ・健康観察のデジタル化（坂井市） など

ICTは苦手。正直、得意な先生に任せた方が…  
ICTを使わないほうが、経験を活かして効果が大きい…  
忙しくて、新しいことを始める余裕がない…



「学校」「先生個人」によって差がある  
ICT担当者など一部の先生任せに  
紙媒体でも活動が止まるわけではないので後回しに など

## 新たな挑戦 - 当たり前の再考 -

### これまでの価値観・常識からの脱却

- ・削減や精選に拠らない見直し
- ・働きがいと働きやすさ
- ・職場の心理的安全性

例えば…

- ・低学年で1週間の時間数削減（日之出小）
- ・時校表・学校行事の見直し（岡本小）
- ・チーム力とコミュニケーション（敦賀西小）
- ・ワークスタイルミーティング（武生高校） など

登下校や見守りなど任せていいのだろうか…  
下校時間が早くなると、帰宅後の生活が心配…  
保護者や地域の理解を得られないのでは…  
先生のやりがいって何だろう…



子どもたちが在籍している時間は、子どもたちへの指導に従事  
子どもたちが在籍する時間の見直しが必要  
コロナ禍で見直した行事を、安易に戻さない  
勤務時間外に会議等を行わない（※超勤4項目除く）

- ・ICTの活用（欠席連絡・集計/アンケート/学校日誌、出席簿の作成など）
- ・会議の縮減
- ・教材の共有
- ・時差出勤の活用
- ・電話の留守対応
- ・学校行事の縮減
- ・朝学習の見直し
- ・業間、昼休み、清掃の時間短縮
- ・PTA行事の縮減
- ・部活動ガイドラインの遵守
- ・部活動指導員の配置
- ・学校運営支援員の配置 など

80時間超過勤務者はゼロを前提に  
月45時間未満者の割合の更なる向上